

レベル	当該レベルへの引上げの基準	当該レベルからの引下げの基準
5	<p><b>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きな噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達</li> </ul> <p><b>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫】</b> 次のいずれかが観測された場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火砕流、溶岩流が居住地域に切迫</li> <li>御岳火口からトンガマ尾根にかけての火口列直下付近を震源とする、規模の大きな体を感じる地震の多発（概ね、マグニチュード4が2回/24時間、またはマグニチュード3が10回/24時間）</li> <li>さらに多量のマグマの上昇を示す急激で顕著な地殻変動</li> </ul>	<p>左記に該当する現象が観測されなくなり、火山活動の低下が続いたと認められた場合には、レベルを引き下げる。</p>
4	<p><b>【ブルカノ式噴火の激化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御岳火口中心から2kmを超えて飛散する大きな噴石を24時間以内に複数回観測</li> </ul> <p><b>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性】</b> 次のいずれかが観測された場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御岳火口からトンガマ尾根にかけての火口列付近から居住地域方向へ流下する火砕流や溶岩流を観測</li> <li>御岳火口からトンガマ尾根にかけての火口列直下付近を震源とする体を感じる程度の地震の多発（概ね、マグニチュード3が2回/24時間、またはマグニチュード2が10回/24時間）</li> <li>多量のマグマ上昇を示す急激で顕著な地殻変動</li> </ul>	<p>大きな噴石が当該距離に影響する爆発が3日程度発生しない場合。</p> <p>左記に該当する現象が観測されなくなり、火山活動の低下が続いたと認められた場合には、レベルを引き下げる。</p>
3	<p><b>【ブルカノ式噴火の激化の可能性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御岳火口中心から2kmを超えて飛散する大きな噴石を観測</li> </ul> <p><b>【火口中心から1kmを超え概ね2km以内に影響を及ぼす噴火の可能性】</b> 次のいずれかが観測された場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御岳火口中心から1km付近まで飛散する大きな噴石を複数回観測/48時間</li> <li>空振を伴う、振幅の大きな火山性微動（トンガマ南西観測点で1分間平均振幅15<math>\mu</math>m/s以上）が1時間以上継続</li> <li>火山性微動の振幅増大（トンガマ南西観測点の1分間平均振幅が概ね40<math>\mu</math>m/s以上が1時間以上継続）</li> <li>火口直下の増圧を示す急激な地殻変動</li> </ul> <p><b>【火口中心から1kmを超え概ね2km以内に影響を及ぼす噴火の発生】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御岳火口中心から1kmを超え概ね2km以内に大きな噴石が飛散</li> </ul>	<p>大きな噴石が当該距離に影響する爆発が3日程度発生しない場合。</p> <p>左記の基準を満たさなくなり、火山活動の低下が続いた場合には、レベルを引き下げる。</p> <p>なお、空振を伴う振幅の大きな火山性連続微動及び大きな噴石を事由にレベルを引き上げた場合は、数日間、火山活動の低下が認められれば早期にレベルを引き下げる。</p>
2	<p><b>【火口中心から概ね1km以内に影響を及ぼす噴火の可能性】</b> 次のいずれかが観測された場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御岳火口でごく小噴火の発生</li> <li>高感度の監視カメラで見える微弱な火映を時々観測</li> <li>火口浅部を震源とする地震の増加（地震回数が10回以上/24時間）</li> <li>火山性微動の発生</li> <li>諏訪之瀬島付近を震源とする高周波地震の増加及び山体の膨張を示唆する地殻変動を観測</li> </ul> <p><b>【火口中心から概ね1km以内に影響を及ぼす噴火の発生】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御岳火口中心から概ね1km以内に大きな噴石が飛散</li> </ul>	<p>左記の引上げ基準に達しない活動が概ね6ヵ月続いたときを基本とするが、平穏時に戻る傾向が明瞭であると判断したときはレベルを引き下げる。</p>
<p>(レベル1の火山活動の状況)</p>		
<p><b>【火山活動に若干の高まりや異常が認められる】</b> 長期間火映が観測されない中で再び火映がみられ始めるような、火口の熱活動が高まりつつある状況や、わずかに火山性地震の増加傾向がみられる状況。また、状況により火山灰や小さな噴石が火口近傍に噴出する程度のごく小噴火が発生する可能性がある。</p>		
<p><b>【火山活動は静穏】</b> 御岳火口付近の熱活動は低調な状態で、火山性地震はほとんど発生せず、火山性微動も観測されないなど地震活動も低調な状態。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでいう「大きな噴石」とは、概ね20~30cm以上の、風の影響を受けずに弾道を描いて飛散するものとする。</li> <li>これまで観測されたことのないような観測データの変化があった場合や、新たな観測データや知見が得られた場合は、それらを加味して評価した上で、レベルを判断することもある。</li> <li>火山の状況によっては、異常が観測されずに噴火する場合もあり、レベルの発表が必ずしも段階を追って順番通りになるとは限らない（下がる時も同様）。</li> </ul>		

- レベル4、5の噴火の規模としては1813年（文化10年）の噴火を想定している。
- レベル5からレベルを引き下げられる場合には、レベル4ではなくレベル3に引き下げるものとする。
- レベルの引上げ基準に達していないが、今後、レベルを引き上げる可能性があるとして判断した場合、「火山の状況に関する解説情報（臨時）」を公表する。また、現状、レベルを引き上げる可能性は低いと判断した場合、「火山の状況に関する解説情報」を公表する。
- 以上の判定基準は、現時点での知見や監視体制を踏まえたものであり、今後随時見直しをしていくこととする。